

第65期（2011年10月期）日本語研修コース

鹿 島 央

1. 研修生

A. 大使館推薦（研究留学生，教員研修生）

文部科学省より配置された大使館推薦の国費留学生は、6ヶ国12名（韓国7名，インドネシア，エジプト，ガーナ，ドイツ，ポーランド各1名）で，うち7名は日韓理工系学部予備教育生である。残り5名のうち，2名が教員研修生で，残りの3名が研究留学生であった。進学先は名古屋大学3名，愛知教育大学1名，滋賀大学1名であった。今回の研修生の5名（日韓理工系学部生を除く）の内，1名は中級以上の学習者であったため，全学日本語講座（SJ301）を受講した。

B. 学内公募（国費留学生）

今期も法学研究科から日本国際協力センター（JICE）の無償支援留学生7名を受け入れた。今期は事前にオリエンテーションを行い，日本語研修コースか全学日本語コースか，学生自身に選択してもらった。

以上のように，第65期日本語研修コースは国費大使館推薦留学生4名，学内推薦留学生7名の合計11名でスタートした。

2. クラス編成

授業は，2クラス編成とし，専任教員2名，非常勤講師9名の計11名が担当した。

ただ，今期については，全学日本語のSJ101（初級標準コース）の人数がかなり多かったため，月，金の1限目，火，水，木の2限目は，SJコースの担当とし，その時間は研修コースは合同クラスとした。

3. 時間割と日程

時間割は64期と同様である。

コースの日程は以下の通りである。

10月7日（金）開講式，10月11日（火）授業開始，冬季休業12月23日（金）～1月9日（月），1月10日（火）授業再開，3月2日（金）修了式。春季休業中の集中日本語講座は例年のように，国際言語文化研究科の主催する日本語実習クラス（2月13日から10日間）があったが，研修コースからの参加者はなかった。

4. カリキュラム

今期の授業内容は，教科書を用いたカリキュラムは64期と同じであったが，例年最終週に行っていた「専門について発表する」というプログラムは行わなかった。代わりに行ったのは，「専門について読む」クラスで，教育，法律，医学の3つの分野でそれぞれの学生の領域に近い資料を選択した。

5. アンケート結果

学生自身の帰国などにより，11名中6名しか回答が得られなかった。

(1) コースのプログラムの満足度

4段階で評価してもらった。「3：とても満足」から「0：まったく満足していない」で，11名中6名が「3」の評価であった。

(2) 自身の学習成果への満足度

4段階の評価で，「3：とても満足」から「0：まったく満足していない」。6名中3名が「3」，3名が「2」の評価であった。この結果から，自身の学習成果にはほぼ満足している傾向が窺える。このうち，4名は，日本語が，コース開始時に期待していたよりできるようになったと回答し，他の2名は期待していたのと同じか，少し低いレベルであったと回答している。このことから，今期は期待していたよりはよかった考える学生がいたことが分かる。

6. まとめと問題点

今期は、研究留学生、教員研修留学生共に少なく、前期とのアンバランスが特に目立った。後期にはこれまでと同様に、法学研究科の国費特別コースの留学生を受け入れたが、留学生各人にコースを選択してもらったことがこれまでとの違いである。

このことがこれまでの受け入れ学生と何か違いがあったのかどうか、学生個人の学習に対する姿勢、動機の強さなどからは特に変わることはなかった。ただ

し、授業への出席率はよかった。一つだけ問題点をあげるとすれば、修了式への出席が法学研究科の留学生は0であったことである。周知は、さまざまな方法で行ってはいたが、学生個人の都合によりこのような結果であったことは非常に残念であった。

研修コースと他の日本語コースの形式上の違いなどが、留学生には十分には認識されていなかったことによるものであると考えられるので、次回からの留意点である。